

弘前大学学報



文京町キャンパスと弘前市内の様子

第 94 号
平成24年 1月号

学内ニュース

○平成24年 年頭の挨拶	-----	1
○講演会「遠藤学長十年の総括」を開催	-----	3
○サークル棟新設記念式を挙	-----	4
○平成24年度大学入試センター試験実施	-----	5
○第30回唐牛記念医学研究基金研究助成金の贈呈式を挙	-----	6
○弘前大学出版会百冊出版記念講演会・祝賀会を開催	-----	8
○平成23年度弘前大学学術特別賞受賞者講演会を開催	-----	9
○平成23年度文部科学省大学生の就業力育成支援事業 弘前大学フォーラム「地域とともに育む大学生の就業力Ⅱ」を開催	-----	10
○遠藤正彦弘前大学長退任	-----	11

諸 会 議

-----	12
-------	----

人 事

○人事異動	-----	14
-------	-------	----

主要日誌

-----	16
-------	----

平成24年 年頭の挨拶



皆さん、新年誠におめでとうございます。皆さんは、新年を新しい希望をもって迎えられたことと存じます。

今年の正月は、雪国津軽らしく多くの雪が降り、雪の片付けに御苦労されたことでしょうか、津軽の正月にふさわしいと思いました。

私はこの一月末日をもって、退任となりますので、特別な想いをもって新年を迎えました。本学は2月1日より、新しく佐藤敬学長の下で、国立大学法人第2期中期目標期間を進んでまいることになりました。皆さんにおかれましては、佐藤新学長の新しい体制の下で、新しい希望をもって本学の更なる発展のため、お尽くし下さるよう願いたします。

今年4月から、国立大学法人第2期中期目標期間の3年目になります。この3年目を迎える時に、この1月の通常国会では、東日本大震災復興のための給与法改正が行われ、国家公務員に準ずる国立大学法人は、その適用を受けることとなります。これに国立大学がどう対応するかは、国立大学が社会から評価を受ける一方で、資源のある大学・余力のある大学とそうでない国立大学間の格差が一層明確になると思われます。つまり、格差の拡大であります。

弘前大学は、第1期中期目標期間の中間評価において、全国国立大学中最下位でした。しかし、その評価方法のあり方には様々な問題がありましたが、本学は懸命に努力して最下位を脱出することができました。しかし、満足すべき状況ではありませんので、大学を挙げての今後の努力が必要であると思えます。

昨年11月、私は一般社団法人国立大学協会総会で、慣例に従って退任予定の学長として挨拶をしました。私は、国立大学長の中で、国立大学法人化の前から就任し続けているわずか2名の学長のひとりで、現在、学長の就任年数が異例の10年と最も長く、大学間格差解消について度々発言していること、また、東日本大震災では、弘前大学が緊急被ばく医療、新エネルギー、自然環境について他大学を圧するばかりの大活躍をしていたので、一部の学長には私の退任の挨拶に関心が向けられました。そこで私は、次のような挨拶をしました。一部を紹介します。

「国立大学法人化直前の文部科学省の国立大学長への説明会の席上で、私は国立大学間の格差を放置したままでの国立大学法人化に強く反対しました。文部科学省幹部からは、『今、文部科学省は格差解消について考えています』との答弁がありましたが、その後何の方策も講じられず、むしろ格差は拡大したと思えます。しかし、第一期中期目標期間を終了してみると、私は、この国立大学法人というシステムは、財政上の運営費交付金のことを除けば、良いシステムなのではないかと思うように

なりました。それは、弘前大学が機能別強化を目標に大学の管理運営を自由に展開することによって、地域に開かれた、地域に密着した大学へと特徴化することが可能になりました。結果として、弘前大学は本学の発展について、一定の方向が見出されるようになったと思えるようになりました」と挨拶をしました。

この総会終了後の懇談会で、国立大学協会関係者のおひとりが、国立大学法人化直前の私の文部科学省への格差解消のこの発言を覚えていて、「その後も弘前大学の遠藤学長は、格差解消の発言は多かったが、今となってみると、その弘前大学が国立大学法人化により最も成果をあげた大学の一つに見えています」といった話をしてくれました。

その後、別の機会に文部科学省関係者から、「弘前大学の東京電力福島第一原子力発電所放射能事故への本学の対応と、そして、自然エネルギー・環境問題を先取りした事業、弘前大学の国立大学法人化後の動きを高く評価しています」と話してくれました。こうしたことの類似の発言は、文部科学省の関係者の中に、他にも数名おりました。

こう指摘されてみますと、国立大学法人化以前、資源の乏しい本学が、この国立大学法人第1期中期目標期間を通じて、学内の基盤整備を進め、その結果、他大学より基盤整備が進んだことは明確で、これは本学構成員の一致した努力によるものとの評価を大変嬉しく思います。そして、この様な評価を元に、本学の平成24年度概算要求や第3次補正予算が他大学よりも手厚い内示を受けたことが納得できると思います。ですから今年もまた希望の持てる年です。

この国立大学法人化後の本学の総括を、来る1月12日、創立50周年記念会館みちのくホールで行いますので、ぜひ御参集いただきたく思います。

国立大学を取り巻く状況は、これから一層厳しくなります。特に国家財政の危機及び東日本大震災復興のために、運営費交付金等の削減があり、また少子化による入学志願者減と不況による学生の就職難は、競合して大学間の競争の激化を促します。

こうした中、この競争にうち勝つため、この一定の評価を得られるに至った本学を、佐藤敬新学長の下で一致して更なる発展を遂げ、頑張っていたきたいと思えます。

この新年はその意味で、厳しいながらも誠に希望に満ちた大きな期待の持てる新年であると思えます。

改めて新年を寿ぎ、皆さんにとりまして実にすばらしい一年になることを祈念し、新頭のお祝いの言葉とします。

平成24年 1月 4日

弘前大学長 遠藤正彦

講演会「遠藤学長十年の総括」を開催

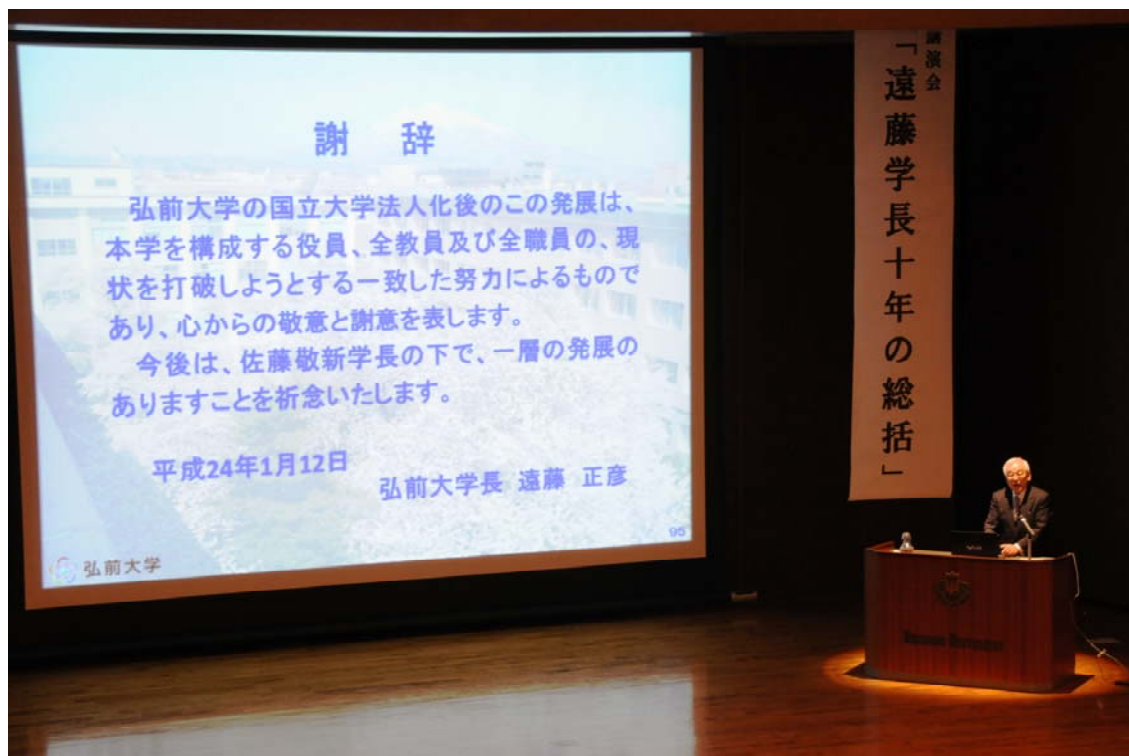
1月12日（木）、10年間学長を務め今月末で退任の遠藤学長による講演会を開催しました。

講演会では、出席した約200人の役員・教職員を前に、大学間の競争が激しくなったこの10年を振り返り、第1部「国立大学法人化とその後の経緯」として、国立大学法人化前の本学をとりまいていた様々な状況、法人化されたことにより様々な制度が変わったこと、中期目標・中期計画に関すること等について、説明がありました。

第2部は「国立大学法人化後の実績」として、学長が個別的役割として自ら行ってきた学部説明会、PR活動としての高校訪問等のこと、予算獲得のための取り組み、学生の質の保障としての教育、就職、学生支援、入学志願者獲得の激化の中での入試、地域に開かれた地域に密着した大学をめざして社会貢献・産学官連携、施設整備、学内の環境整備等について、説明がありました。また、本学が機能別強化として取り組み、そして設置した「北日本新エネルギー研究所」、「被ばく医療総合研究所」などの活動が、今回の東日本大震災の際に非常に評価されたことなどが紹介されました。

最後に、「弘前大学の国立大学法人化後のこの発展は、本学を構成する役員、全教員及び全職員の現状を打破しようとする一致した努力によるものであり、心からの敬意と謝意を表します。 今後は、佐藤敬新学長の下で、一層の発展のありますことを祈念いたします。」と締めくくりました。

会場からは、遠藤学長に対して惜しめない拍手が送られました。



講演する遠藤学長

サークル棟新設記念式を挙行

本学は、1月13日（金）、サークル棟新設記念式を行いました。

これは、学生支援事業として既存のサークル棟（3棟）に加えて、新たに1棟新設したものです。

始めに、遠藤学長がサークル棟の整備に至る経緯を交えながら挨拶を述べた後、遠藤学長、神田教育・学生担当理事、江羅財務・施設担当理事、人文学部2年藤田さんによるテープカットを行い、完成を祝いました。



テープカットの様子



完成したサークル棟内での記念撮影の様子

平成24年度大学入試センター試験実施

平成24年度大学入学者選抜大学入試センター試験が、1月14日（土）、15日（日）の2日間にわたり全国一斉に実施されました。県内では弘前大学、青森県立保健大学、青森公立大学、青森大学、青森大学田名部高等学校会場、青森中央学院大学、八戸大学、八戸工業大学及び北里大学獣医学部の9試験場で実施されました。

この後、本学の個別学力検査は、前期日程試験が2月25日（土）、26日（日）（合格発表は3月6日（火））、後期日程試験が3月12日（月）（合格発表は3月20日（火））に実施されます。

なお、本学が担当した大学入試センター試験の志願者及び受験者は、次のとおりです。

◇平成24年度学入試センター試験 教科別受験状況

弘前大学試験場	担当学部：理工学研究科，農学生命科学部	志願者数：1,472人
---------	---------------------	-------------

1月14日 (土)	科目	地理歴史・ 公民①	地理歴史・ 公民②	国語	外国語 (筆記)	英語 (リスニング)
	受験しなかった者	729	96	59	53	55
	受験した者	743	1,376	1,413	1,419	1,417
	受験率 (%)	50.5	93.5	96.0	96.4	96.3

1月15日 (日)	科目	理科①	理科②	数学①	数学②
	受験しなかった者	391	115	95	176
	受験した者	1,081	1,357	1,377	1,296
	受験率 (%)	73.4	92.2	93.5	88.0

第30回唐牛記念医学研究基金研究助成金の贈呈式を挙

本学大学院医学研究科では、1月19日（木）、第30回唐牛記念医学研究基金研究助成金の贈呈式を行いました。

唐牛記念医学研究基金は、退職金を社会貢献に役立てたいという、みちのく銀行初代頭取の故唐牛敏世氏の意志に基づき本学医学部（現：大学院医学研究科）に創設されました。

式では、佐藤医学研究科長より受賞者一人一人に目録が手渡され、受賞者からは感謝の言葉と研究への意欲が述べられました。

助成対象者は、次の方々です。

○第30回（平成23年度）助成対象者

講座・部門	職名	氏名	研究課題
医学研究科 脳神経内科学講座	准教授	松原 悦朗	画期的A β 重合体特異的ワクチン療法の開発
医学研究科 分子病態病理学講座	講師	水上 浩哉	2型糖尿病 β 細胞死に関与するDNAメチル化の検討とその制御による新規治療法の開発

講座・部門	職名	氏名	研究課題
医学研究科 ゲノム生化学講座	助教	清水 武史	CD34陽性細胞のペルオキシソーム増殖剤によるラット肝発がんにおける役割の解明



目録を受け取る松原准教授



目録を受け取る水上講師



目録を受け取る清水助教

弘前大学出版会百冊出版記念講演会・祝賀会を開催

弘前大学出版会では、創設以来出版刊行数が100冊に達したことを記念して、「弘前大学出版会百冊記念講演会・祝賀会」を1月19日（木）、創立50周年記念会館で開催し、一般の方をはじめ教職員、学生約100名が参加しました。

講演会では遠藤弘前大学長が出版会設立に至る経緯を交えながら挨拶を述べたあと、中根弘前大学出版会編集長から出版会100点刊行のあゆみや記念誌「弘前大学—知の散歩道—」の紹介等報告が行われました。

続いて行われた記念講演会では、松木明知弘前大学名誉教授より「研究、出版、そして情報発信」と題し、続いて、竹中英俊東京大学出版会常務理事より「グローバルな大学出版へ」と題し講演が行われました。

講演会終了後の祝賀会では、遠藤学長、中根編集長の挨拶に続き、佐藤医学研究科長の音頭で乾杯が行われ、齋藤弘前ペンクラブ会長、神田教育・学生担当理事や花田医学部附属病院長など関係者によるスピーチが行われました。

これまでの出版会出版刊行物の執筆者や創設当時を知る教職員等による交流などにより、100冊記念を祝いました。



講演する松木明知弘前大学名誉教授



講演する竹中英俊東京大学出版会常務理事

平成23年度弘前大学学術特別賞受賞者講演会を開催

本学では、1月24日（火）に平成23年度弘前大学学術特別賞受賞者講演会が開催され、学術特別賞を受賞した本学の研究者が講演を行いました。

講演会では、遠藤学長の挨拶のあと、独創的で完成度の高い数編の論文を対象とする「弘前大学学術特別賞（遠藤賞）」を受賞した理工学研究科 吉澤 篤教授と医学研究科 森 文秋准教授、将来性を伺わせるに足る1編の論文を対象とした「弘前大学若手優秀論文賞」を受賞した農学生命科学部 尾崎 拓弘前大学特別研究員と保健学研究科 細田 正洋助教がそれぞれ受賞テーマや受賞論文について講演を行いました。

今回の講演会では、教職員のみならず、多数の学生が参加し、参加者は高い水準の講演に聴き入り大変盛況な講演会となりました。



講演する吉澤教授



講演する森教授

平成23年度文部科学省大学生の就業力育成支援事業 弘前大学フォーラム「地域とともに育む大学生の就業力Ⅱ」を開催

本学では、1月25日（水）、文部科学省「大学生の就業力育成支援事業」の採択を受け、第2回目となる弘前大学フォーラム「地域とともに育む大学生の就業力Ⅱ」を開催しました。フォーラムでは、本学で採択された課題「地域企業との対話を通して培う企画提案力」をテーマとした基調講演と学生による地域企業の抱える経営課題を素材とした課題解決型学習の成果発表を行いました。遠藤学長、石堂人文学部長の挨拶に続き、ソニー株式会社 半導体事業本部人事部統括部長 松久 功氏を講師に迎え、「企業が望む大学生の就業力～よりよいキャリア形成のために～」と題した基調講演を行ったのち、後半は、学生による取組の成果発表が行われました。学生や他大学・企業関係者ら約130名の参加があり、学生たちの多彩なアイデアに興味深く耳を傾けていました。



今年度の取組の概要と成果を発表する学生



会場の様子

遠藤正彦弘前大学長退任

1月31日（火）、任期満了で退任する遠藤正彦学長が、本学幹部職員等を前に退任の挨拶を行い、在任の10年間を振り返って、「それぞれの大学に、自主・自律及び機能別強化が求められ、そして、評価と競争の時代への突入であった」と振り返りました。

遠藤学長は、「この間の重要事項は、国立大学の法人化、国立大学法人化後の第1期中期目標期間の暫定評価において全国最下位となったこと、昨年3月11日の東日本大震災とそれに続く東京電力福島第一原子力発電所の放射能事故であり、皆さんに対処していただきました。大学間格差・地域間格差のため、最低の評価を受けたものの全構成員の努力で評価が上昇していますが、まだ満足すべき状況ではありません。しかし、本学は第2期中期目標・中期計画の中に、エネルギー、環境、食そして被ばく医療を中心に、他大学にはない機能別強化の方向を打ち出し、北日本新エネルギー研究所、白神自然環境研究所そして被ばく医療総合研究所を立ち上げ、それに向かって着実に歩みを進めています。また、附属図書館における文系図書整備5ヶ年計画の進行、出版会の躍進、機器分析センターの充実は、本学の教育・研究の基盤整備のあり様を物語っています。多くの学外者から弘前大学のこの大学改革を高く評価しているとの声が聞かれますが、これに驕ることなく、地域に密着し地域に開かれた大学として更なる努力が必要と思います。学長として、本学構成員と共に歩んできたこの10年間を大変有難いものと思っており心から御礼申し上げます。」と述べるとともに、佐藤敬新学長の下に結集して、更なる発展を願うとエールを送りました。

そして、事務局職員から花束が贈られ、職員の惜しみない拍手が鳴りやまない中、10年間学長を務めた弘前大学を後にしました。



弘前大学を後にする遠藤学長

■ 諸 会 議

▼役員会

1月16日（月）

報告事項

- 1 平成23年度弘前大学学術特別賞受賞者講演会の開催について

1月23日（月）

審議事項

- 1 国立大学改革強化推進事業への各学部等からの提案について

1月30日（月）

審議事項

- 1 平成23年度 戦略的経費について
- 2 平成27年度大学入試センター試験及び個別学力検査における「数学」及び「理科」の取扱いについて

報告事項

- 1 平成23年度 学長裁量経費について
- 2 平成23年度 予備費について
- 3 平成24年度弘前大学特別研究員の採択（継続・新規）について

▼教育研究評議会

1月10日（火）

報告事項

- 1 教員の人事について
 - (1) 教員の採用・昇任
- 2 平成23年度内部監査の結果について
- 3 平成23年度組織評価の評価結果について
- 4 学寮の耐震改修工事について
- 5 平成23年度弘前大学研究成果公開シンポジウムの結果について
- 6 ダイバーシティ・サポート・オフィス（DSO）入会について
- 7 JSTプログラムオフィサー訪問について
- 8 委員会等報告
 - (1) 21世紀教育センター運営委員会
 - (2) 教育・学生委員会
 - (3) 入学試験委員会
 - (4) 研究・産学連携委員会
- 9 国立大学法人弘前大学職員懲戒等委員会の設置について
- 10 除籍学生の再入学について
- 11 医学部附属病院における超過勤務手当の不適切な支給について

▼総務委員会

1月26日（木）

審議事項

- 1 弘前大学における広報マネジメント体制の整備について

▼教育・学生委員会

1月26日（木）

審議事項

- 1 大学院学則の改正について
- 2 教育課程編成・実施の方針（CP）及び学位授与の方針（DP）について
- 3 公開授業・検討会における要望等について
- 4 学生表彰について

報告事項

- 1 新生生に対する生活指導の実施について
- 2 サークル棟の使用について

▼研究・産学連携委員会委員会

1月11日（水）

審議事項

- 1 共同研究・受託研究取扱規程の改正について

報告事項

- 1 平成23年度弘前大学研究成果公開シンポジウムの結果について
- 2 弘前大学における産学連携に関するアンケート結果について
- 3 平成23年度弘前大学学術特別賞受賞者講演会の開催について
- 4 平成24年度科研費政府予算案について
- 5 平成24年度弘前大学特別研究員の審査委員について
- 6 弘前大学動物実験に係る自己点検・評価等について
- 7 地域共同研究センター運営委員会の報告について

新任教授紹介



人文学部

アダチ マサル
足達 薫

足達人文学部准教授が、平成24年1月1日付けで同学部教授に発令されました。



人文学部

カウ ケイイチ
加藤 恵吉

加藤人文学部准教授が、平成24年1月1日付けで同学部教授に発令されました。



人文学部

シマ ケイイチ
嶋 恵一

嶋人文学部准教授が、平成24年1月1日付けで同学部教授に発令されました。



医学研究科

ウルシダテサトシ
漆館 聡志

漆館附属病院講師が、平成24年1月1日付けで医学研究科教授に発令されました。

人 事 異 動

[採用]

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
平成24年1月1日		今井 雅	准教授(理工)
平成24年1月1日		花田 修賢	准教授(理工)
平成24年1月1日		西野 敦雄	准教授(農生)
平成24年1月1日		加村 梓	助手(病院) [28.12.31まで]
平成24年1月1日		和田 盛人	助手(病院) [28.12.31まで]
平成24年1月1日		小笠原 順子	臨床工学技士(病院)
平成24年1月16日		今井 篤	助教(病院) [24.04.05まで]

[昇任]

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
平成24年1月1日	准教授(人文)	足達 薫	教授(人文)
平成24年1月1日	准教授(人文)	加藤 恵吉	教授(人文)
平成24年1月1日	准教授(人文)	嶋 恵一	教授(人文)
平成24年1月1日	講師(病)	漆館 聡志	教授(医) [33.12.31まで]

[配置換]

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
平成24年1月16日	講師(病院)	横井 克憲	講師(医) [31.01.15まで]
平成24年1月16日	助教(病院)	三上 誠	助教(医) [29.01.15まで]
平成24年1月16日	講師(医)	山形 和史	講師(病院) [31.01.15まで]
平成24年1月16日	助教(医)	櫻庭 裕丈	助教(病院) [29.01.15まで]

[併任]

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
平成24年1月1日	理事(財務・施設担当)	江 羅 茂	総務部長事務取扱
平成24年1月1日	講師(生涯学習教育研究センター)	深 作 拓 郎	社会連携委員会委員
平成24年1月1日	教授(医)	漆 館 聡 志	医学部附属病院形成外科科長

[免除]

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
平成24年1月1日	医学部附属病院形成外科科長	澤 村 大 輔	

[休職]

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
平成24年1月4日	一般職員(病院・医事)	斎 藤 め ぐ み	平成24年4月3日まで
平成24年1月9日	課長補佐(学務・教務)	工 藤 文 弘	平成24年3月1日まで
平成24年1月22日	一般職員(病院・経調)	笹 原 明 史	平成24年2月13日まで

[育児休業]

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
平成24年1月8日	看護師(病院・看護部)	花 田 千 鶴 子	平成25年3月31日まで
平成24年1月29日	助教(保)	山 内 綾 子	平成24年8月31日まで

[復職]

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
平成24年1月1日	技術職員(学務・教務)	宮 元 章 匡	育児休業より

[離職]

発令年月日	現職(所属)	氏名	異動内容
平成24年1月31日	学長	遠 藤 正 彦	
平成24年1月31日	理事(総務担当)	藁 科 勝 之	
平成24年1月31日	教授(医)	佐 藤 敬	
平成24年1月31日	教授(医)	中 根 明 夫	

■ 主要日誌

- 1月10日 教育研究評議会
- 11日 研究・産学連携委員会
- 12日 講演会「遠藤学長十年の総括」
- 13日 サークル棟新設記念式
- 14日 平成24年度大学入試センター試験
- 15日 平成24年度大学入試センター試験
- 16日 役員会
- 17日 経営協議会
- 19日 第30回唐牛記念医学研究基金研究助成金贈呈式
- 23日 役員会
- 24日 平成23年度弘前大学学術特別賞受賞者講演会
- 25日 平成23年度文部科学省大学生の就業力育成支援事業
弘前大学フォーラム「地域とともに育む大学生の就業力Ⅱ」
- 26日 総務委員会
学長定例記者会見
- 27日 教育・学生委員会
- 30日 役員会
- 31日 学長退任の挨拶

弘前大学学報第94号

弘前大学総務部総務課
036-8560 弘前市文京町1
電話 (0172) 36-2111